

令和2年9月18日作成

ふくろうの森 インフォメーション

勉強ぶれいく

FUKUOUNOMORI



学ぶ力をつける条件と成績を上げる単純な方法

窓を開けていると気持ちの良い風が入ってきます。お昼寝がとても快適な日々になりました。食べて寝ることが一番幸せを感じるこの頃です。(お酒も少し必要です)

今年の夏休みは少し短めに終わりました。そして外出自粛があって、いつもと違った過ごし方をした夏休みとなりました。ふくろうの森には毎年県外から中学生が10数名ほどやってきて泊りがけで学んでいきます。ふくろうの森の教室は12席しかありませんので別教室を設けています。しかし今年は3名。そのため今年は、ふくろうの森本校の教室だけで夏休み企画を行いました。

学ぶ力の差

中学受験で難関私立校に合格したけれどついていけなくなった、不登校が続きまったく勉強が進んでいないなど個々それぞれの状況の中学生が、ふくろうの森で勉強漬けの学習をすることで基礎基本学習を終えて帰宅していきます。

そうした中には、驚くほどの学びをしていく子がいます。肩たたき候補から学年上位へ、中学数学の学びゼロから始め5日学んだ帰宅後の全国模試で平均点。学年中位から全国トップクラスの高校へ合格。

このような合宿生からの報告を聞くと、ずいぶん嬉しいのですが、いつも思うのは、こうした子達と、それほどまでに効果的な勉強にならなかった子や普段ジタバタとしながら一緒に学んでいるけれど、なかなか伸びない地元の子と何かが違う。大きな「学ぶ力の差」を感じます。

地元の子の場合、のんびり静岡風土や運動重視地域であるからと環境的なところが考えられるのですが、個人的違いを見てみると、明確に違うものがあります。それは「食欲」と「睡眠」です。合宿を利用して圧倒的伸びを実現している子は一律にして「よく食べる」、苦手な食べ物はあっても、食卓に並んだものは完食します。栄養のために苦手なものを克服するという、生存するために持っている能力をしっかりと使っています。そして「よく寝る」。遠くから来た初めての環境でよく寝られない状況ですが、それでも11時頃にはベッドに入り8時間は自律的に就寝時間にはしています。

「よく食べる力」と「よく寝る力」がある、こうした子はすべて、合宿での学びという環境でそれぞれの持つ壁を打破し「圧倒的伸び」を実現しています。教室で勉強している姿を見ると持ち前の健康と体力という基礎が朝から夜までという長時間勉強にグングン背中を押している様子をひしひしと感じることができます。

「よく食べる力」と「よく寝る力」がないとそうはいきません、とても耐えられないのです。ほんのわずか60分間に何度もくじけて集中を欠いてしまいます。食べ物は、誰にでも好き嫌いがあり先天的に多いこともよくあります。しかし人は好き嫌いを克服する能力を持っています。単純に「食べない」という選択で生存できなかった生物との大きな違いです。寝るというのは「意志」と「本能」。それをコントロールすることができるのが人。絶滅種との違いです。学ぶ力の条件、そ



れは「よく食べること」と「よく寝ること」。少しでも成長したい、将来の選択や活動の範囲を大きく広げる翼である「学ぶ力」をつけたいというとき、もし「よく食べる」「よく寝る」ができていないのであれば、ここの挑戦を始めることで、これからの人生が大きく変わっていきます。その挑戦は1か月で変化を見られるほど大きなものです。



成績を上げる単純な方法

再び、大きな成長を見せた合宿生のお話です。合宿生の中には私立中高大一貫校で学んでいて中学2年生で公立中3年生内容を終え3年生で高校内容に進んでいる状況のような子がいます。そして内容もレベルが高い、数学でいうと中3で高校チャートI・A赤レベルです。そして本人の状況というと1年生ですでにつまずき、3年生夏休み前には、もうボロボロで「肩たたき候補」になっていた。そのような時に、夏休みの超短期間でどうしたらよいのか。お母さまと東京で打合せをして「ある方法」について承認をしていただきました。その方法……。それは単純な方法です。

「先ず1教科、数学の基礎基本だけをやる」。具体的には普段、教室で使っているテキストの縦復習版を完全消化することです。4泊5日でそれを行い不足するときは延長する。学校では副教材として高校数学チャート赤を使っているときに、中学数学の基礎基本だけをやるわけです。すると元々、中学受験で学びの経験がある、そして「食

べる」「寝る」という力がある、そのため計画通り4泊5日で完了。そうすると次が楽なんです。その続きがありますが長くなるので割愛して、普段の教室での学びにお話しを変えます。

地元地域の公立中学校テストは50点満点、40点以上を取りたいなあと思ったら、地元公立中学校レベルであれば、とっても簡単な方法があります。

教室で普段使っている、塾教材としては**薄い教材**。この教材、これをすべて消化すれば40点以上になります。これは本当のお話です。卒業生何人もそれを実行して実現しています。



いつもの勉強方法でいうとすべて「OK」にすれば40点以上になります。他にふれずに**この薄い教材に集中できるかどうか**が一番大切なところです。

もちろん他の教材でも通年内容で一定レベルのものであれば同じように40点以上になります。

逆に言うと、「最低必要な学びの時間をとっていない」のであれば、塾でも家でも図書館でも、どこでやっても世界一のカリスマ先生が横にべったりついていても、どんな教材を使っているてもダメ、お話にならないということです。そして、塾でも家でも図書館でも、どこであっても「(この薄べらな) **テキストに集中している**」「**学びの時間をとっている**」ができていれば、40点以上になります。

数学のテストが10点なくて……。そんなときは、「**テキストに集中しているか**」「**学びの時間**



をとっているか、教室企画でいえば「勉強会」「自習企画」「季節講習」を100%活用しているか。というところを見直して改善するだけで40点以上になります。単純なんです。



40点以上までの進捗確認方法

この薄い教材を使った勉強で、どのくらいでどのくらいなのか「進捗」を見る方法があります。テキストを観れば一目瞭然とわかります。

学校進度から遅れてしまっている。この場合、元々をゼロとした場合、10点も取ることができません。そして数学でいうと、TRYのOKが1回目についていることが多い。これは「自分で答え合わせ」しているときや、横のページにある解説をみながら解いているときによくあります。自分に甘いケースです。当然、テストではたいした点数を取ることができません。せいぜい20点台です。TRYのOKが取れた、でもEXERCISは手つかず。これも20点台です。EXERCISまでOKを取った。この時点で40点以上になります。

- ① 学校進度から遅れている→10点以内
- ② 自分に甘い→10点以内～20点
- ③ TRYのOKが取れた→10点台～20点台
- ④ EXERCISまでOK→40点台

詳細を省くと、こんな感じです。地元中学生でよくあるのが②のケースですね。

「次のテストで40点以上取りたい」本当にそう思ったなら「EXERCISまでOKを取る」そこに集中しそのための時間を確保するだけ。とても単純なことです。「なんでもよく食べる」「よく寝る」

そして「EXERCISまでOKを取る時間を作る」たったの三つ。だからやらない人には「テストの点が」ってメソメソする資格さえもないということです。

「EXERCISまでOKを取ったらどうするのか」そうするとなんでもできます。私立中高大一貫校に通っていた生徒もクラス平均から全国トップレベル校に合格した生徒もそうです。少なくとも静岡の公立中学校レベルでは40点以上を安定的に取れますのでなんでもできます。

高校入試の変化と私立中学受験

ここ数年、私立高校の頑張りや支援金制度の拡充によって高校入試の様子が大きく変化しています。2021年入試はもっと大きな変化があることでしょう。それにともない私立中学受験にも「倍率がある学校が増える」「新しく特待入試制度を設けた学校がある」などの変化があります。その変化の様子を確認し予想するため、今年度の学校説明会参加は必須活動になっています。

静岡の高校入試制度は内申重視の推薦入学制度といわれるくらいの制度です（詳細は、ふくろうの森が発行する「静岡県公立高校入試対策入門」に書いています）が、私立中学受験は、当日の点数重視色が濃いものになります。（合格基準の目安要素）これは塾としてはとても面白いと思えるところです。そのため、ふくろうの森でも今後「私立中学受験」をテーマにした企画に力を入れたいと思います。小学校4年生からの内容にしていく予定です。

作成 ふくろうの森 石嶋之広

